

第4回 ラオス柔道指導事業報告書

平成26年1月吉日

西日本実業柔道連盟

挨拶

団長代行 吉岡 智行



西日本実業柔道連盟では、本事業を連盟事業の一つと位置づけ、近隣国の柔道普及拡大のための国際交流と、国際感覚を身に付けた柔道指導者の育成を継続して行っています。

今回のラオス人民民主共和国は4回目の派遣となります。ラオス柔道連盟はJICA（国際協力機構）より派遣された「ラオス柔道育ての親」と呼ばれた菊池正敏6段を始め、同じくJICA派遣、ナショナルチームコーチの熊井憲治6段やインターナショナルスク

ール教員の石田良子先生等々、幾多の日本人指導者が情熱を注ぎ、根気強く柔道発展に努めて来られたことにより、現在ではラオス政府からも高い評価を受けております。又、当連盟から過去（3回）派遣された先生方が、ラオス柔道連盟の方々と交流を図ると共に、現地の練習では丁寧な技の指導と解説等を毎回行った積み重ねにより、ラオス柔道連盟と西日本実業柔道連盟が強い信頼関係で結ばれていることを強く感じました。

一方、ラオスナショナルチームは、彼らの最大の目標であるシー・ゲームズ(東南アジアスポーツ大会)を一月後に控え、ラオ・ジャパン武道センターに於いて一般学生等も含めた、男女合わせ約40名の選手が連日、熱の入った練習を繰り返しておりました。

その中で、我々派遣団は熊井先生の期待に応え、ナショナルチームの選手が大会で活躍出来ることの協力を惜しむことなく、全力を尽くすことを誓い合い指導に臨みました。その詳細は後述の通りですが、コーチ陣は30度を越す気温の中で精一杯、得意技の解説、指導や練習相手を務めてくれました。又、子供柔道教室にも参加しましたので、子供達には「将来、ナショナルチームで活躍出来る選手を目出してお返し頑張り！」とお願いしました。

滞在中には、ラオス教育スポーツ省や在ラオス日本大使館を表敬訪問し、各要人と挨拶を交わすことが出来ました。スポーツ省訪問の様子は地元新聞にも大きく報道され、地元関係者の感謝と期待を強く感じた次第です。また、ラオス柔道連盟主催の夕食会やビエンチャン市内の料理店へのご招待、各名所旧跡の観光まで、熊井先生や坂東雅邦ラオ・ジャパン武道センター事務局次長（武道センターの運営管理）には語り尽くせぬお世話を頂き、感謝致しております。



スポーツ教育省にて

最後になりましたが、ラオス柔道連盟の今後益々の発展と健勝をお祈りしますと共に、今回の派遣に際しましては、派遣企業の方々のご協力に深く感謝申し上げ、私の第4回ラオス柔道指導事業報告と致します。

派遣メンバー

団長代行

吉岡 智行 常任理事 新日鐵住金(株) 61歳

キャプテン

甲能 武 京阪電気鉄道(株) 5段 47歳

指導員

松本 邦彦 大阪ガス(株) 2段 32歳

杉本 脩 三菱レイヨン(株) 2段 29歳

石橋 佑哉 (株)九電工 4段 28歳



主な行程

11月20日(水)

18:00 結団式、壮行会、宿泊 ホテル京阪天満橋

11月21日(木)

10:30 関西国際空港発～17:50 ビエンチャン国際空港着(ハノイ経由)
宿泊 アバロン・ホテル(ビエンチャン市内)

11月22日(金)

午前 教育スポーツ省表敬訪問・寄贈品贈呈式 午後 立技主体の練習・指導

11月23日(土)

午前 各指導員の得意技紹介・披露 午後 子供柔道教室・指導
夕刻 ラオス柔道連盟主催歓迎夕食会

11月24日(日)

午前 寝技主体の練習・指導 午後 立技主体の練習・指導

11月25日(月)

午前 日本大使館表敬訪問 午後 立技主体の練習・指導

11月26日(火)

ナングム・ダム見学&洋上ランチ

20:05 ビエンチャン空港→21:05 ハノイ国際空港

11月27日(水)

00:30 ハノイ国際空港 → 06:40 関西国際空港着 解散

訪問記

吉岡 智行

11月20日(水)

(結団式・壮行会)

15時、ホテル京阪天満橋にて打合せ。田中団長の突然の渡航中止で、海外経験の少なさに不安がよぎる。18時に結団式・壮行会。大橋副理事長の挨拶で始まり、連盟役員から激励の言葉を受ける。私が団長代行拝命。各コーチの挨拶の後、私が挨拶し20時終了。

11月21日(木)



ラオス・日本武道センター全景

6時45分ホテルを出発。関西空港に到着し搭乗手続き。10時30分関空出発、約5時間半でハノイに到着。ハノイで2時間余りを過ごした後、ビエンチャンに17時50分に到着。入管手続きを済ませロビーに出ると、坂東先生、青年海外協力隊の鈴木祥子先生、現地のパリタコーチ・マヨリーコーチ(女性)の皆様の出迎えを受け、車両2台でホテルに向かう。熊井先生は病院での診察(前日、練習中に負傷)で迎えに来られず。一同、宿泊

先のアバロン・ホテルへ直行した後、選手が練習中ということを知り、武道センターに向かい、5分程度ながら武道センターや練習(参加選手は男女半々で20名程度)を見た。

病院から戻られていた熊井先生にご挨拶を済ませ、練習終了後の20時30分から近所のラオス料理店で熊井・坂東・鈴木の3先生に歓迎会をして頂いた。ラオス柔道の現状等を拝聴し、明日からの打ち合せを行う。

11月22日(金)

(教育スポーツ省表敬訪問)

9時30分集合、教育スポーツ省に向かう。教育スポーツ省では、センボン・エリートスポーツ局長に面会し挨拶の後、寄贈品の贈呈。センボン局長からは「日本からの支援は大変感謝している。又、今回もこのような品々を頂き選手も喜んで呉れる。今回の第27回のシー・ゲームズで金2個は取れるよう期待しているし、選手たちは頑張ってくれと思う。」の感謝の言葉があった。これをテレビ局や新聞社が取材・撮影を行い、そ

の様子は3日後の11月25日に現地新聞に掲載された。(我々一行の他、熊井・坂東両先生・マヨリーコーチ、ケニカン・ラオス柔道連盟副会長等が出席)

(練習・指導)

ホテルから徒歩10分程度の武道センターで17時30分練習開始。顔合わせの後、我々の自己紹介。今回の目的とメンバーの自己紹介はパリタコーチの通訳により伝えられた。



強化選手全員と記念撮影

選手たちは三々五々に集合し、淡々と練習をする。立技打込みを終えた後、熊井先生からの要望で松本・石橋両コーチの背負投、一本背負投を披露する。両氏共、丁寧に指導するので選手達は熱心に説明を聞く。説明後、選手代表の2名に実際行わせながらポイントを指導すると直ぐに対応、運動能力の高さを感じられた。その後、全員で乱取練習を40分程行い練習を終了。練習で安心したことは、言葉の障害も柔道では身振り手振りで十分伝

わることを確認できたことである。コーチは初練習で「選手達に怪我をさせない、自信を失わせない」等に神経を使い過ぎ、疲労困憊気味であった。

11月23日(土)

(練習・指導)



寝技の指導風景

10時30分、選手約20名が参加して練習開始(気温28度:湿度65%)。この日は寝技中心の練習で、石橋、松本両コーチが得意技を披露し説明を行った。選手達は寝技の練習を敬遠する傾向があると事前情報であったが熱心に聴く。2、3の選手に実際にやらせた上で詳細を解説した後、コーチは個々の選手の指導に当たった。その後、乱取り(4分×10本)に移行した中で、2、3の選手は技を駆使し、又、習った技を試す選手は見られ

たが、本数を重ねるに連れ練習から外れていく選手が目立つことが気になる。コーチ陣は練習から逃げる(離れる)選手を捕まえては、積極的に練習・指導に当たってくれた。15時から子供達の柔道教室。40人以上が練習に参加した。整列をした後、我々の方から自己紹介を行った。小学1年生以下の子供もいたが、挨拶はきちんと指導されており感心した。打ち込みを行った後、4人のコーチがそれぞれに得意技を披露し、子供達に習得したい技のコーチを選択させ、それぞれのグループに分かれ指導した。子供達は

熱心に、コーチの説明を聞きながら練習した。その後、コーチも混じっての乱取練習で終了。子供達は、日本の子供と同様に無邪気に柔道をし、その姿は非常に楽しそうであった。

最後に一同整列し、お土産をそれぞれコーチから子供達に手渡しした。非常に嬉しそうな顔が印象的で、子供達には将来も柔道を続け、ラオス柔道の牽引者として育ててくれるようお願いした。(石橋コーチは子供たちに大人気で、次々と写真をせがまれていた。)



子供柔道教室での指導風景

(ラオス柔道連盟との交流)

19時30分、ラオス柔道連盟主催の歓迎夕食会。会長は所用で欠席、ケニカン副会長がご挨拶。屋外のベトナム料理店で満天の空を見ながらの懇親会は非常に楽しかった。

11月24日(日)

(練習指導)



立ち技の指導風景

10時30分練習開始。寝技を中心の練習。熊井先生からの要望で、甲能、杉本両コーチの寝技を披露した後、選手達が反復練習し、コーチ陣は個人指導に当たった。

15時午後の練習開始。練習は立技を中心に行うが、熊井先生からの要望で、甲能、杉本両コーチの立技の得意技を披露した後、強化選手による元立ち練習を開始。選手達は立技練習は積極的でその内容も充実していた。コーチ陣は積極的に練習相手になり、選手達の苦手な寝技も織り交ぜて指導を行う。コーチ陣も選手と親しくなり、選手に見合った細かな指導を行う状況が見られるようになった。

(観光)

17時練習終了。メコン川沿いのホテルのテラスからサンセットを見る為に大急ぎで現地に移動。夕日は落ち掛けていたが、とても綺麗で雄大だった。夕食には鈴木・石田両先生に出席頂き大いに盛り上がった。杉本コーチの英語の発音は鈴木先生に大受け。

11月25日(月)

(日本大使館表敬訪問)

10時30分、日本大使館を訪問。(カメラ持込み禁止。)大使館では、磯正人公使や二元裕子広報文化班長の出迎えを受けた。訪問主旨を伝えると共に手土産をお渡しする。公使からは、「ラオスのような発展途上国は国威発揚を促すのにスポーツは大きな力に

なります。皆様の活動に大いに期待しています。」との応援の言葉を頂いた。

(ショッピング)

表敬訪問終了後、熊井先生からスーパーマーケット風の土産物店や絹織物店等を案内して頂いた。会社や職場から快く送って頂いたコーチ陣は、沢山のお土産を買い込んでいた。

(最後の練習指導)

練習は立技乱取で元立ち形式で行った。コーチ陣も積極的に練習に加わり、時には激しく、しかし丁寧に指導しながら練習を進める。日頃、練習相手が少なく同じ相手とばかりやっているため、技の踏み込みが浅く、若干大柄なコーチ達には通用しないところが見受けられた。又、コーチに「彼らに怪我をさせない、自信を失わせないなど、過度の遠慮は彼らの為にならない。」と言っておいたことから、かなり選手達には厳しい練習となった。

最後の練習を終了、お別れの挨拶。私は「短い期間であったが、将来とも期待できる選手が多く、非常に楽しく練習や指導も出来た。シー・ゲームズでは是非メダルを取るよう期待しています。」と伝えた。コーチは「初めての貴重な経験をさせて頂き大変楽しかった。」等の挨拶。又、記念集合写真の撮影や仲良くなった選手達との写真を撮りあうなど、別れがたい雰囲気の中で武道センターを後にした。何か、もっと出来たのではないかと等々心残りがあったのは私だけでは無かったのではないかと。最後に使用した我々の柔道着を贈った。

(お別れ会)

20時過ぎに中華料理店で最後の夕食会を開いて頂いた。熊井・坂東・鈴木各先生に加え、日本国大使館二等書記官で警備対策官の藤原正明氏達も出席。宴席は、最後の夕食で別れを惜しみながら、ラオス柔道への期待等で話が盛り上がり、大いに賑わった。

11月26日(火)

(ナングム・ダム観光)

9時30分ホテル出発。一行はケニカン副会長の運転で熊井先生以下総勢10名とワゴン車1台でナングム・ダム見学に向かう。2時間余りで到着。ナングム・ダムは人工のダム湖(琵琶湖の半分程度)が広がり、雄大で美しい姿を見せていた。船上の昼食を兼ねた舟遊びは優雅で、ゆっくりした時間を過ごし我々一行の気持ちをリラックスさせてくれた。



湖上での昼食

(帰国)

空港にナショナルチームのメンバーが大勢見送りに来てくれて土産まで頂く。皆で記念写真を撮り、別れの挨拶を交わして搭乗口

に向う。1時間余りでハノイ空港に到着し遅めの夕食。何のトラブルもなく0時30分に関空行きベトナム航空VN330に搭乗し無事、6時40分に関空に到着した。「お好み



別れ

焼きを食べたい。」とのコーチ陣の要望で久しぶりの日本食を摂り、今回の派遣事業を終了したことを皆で確認した。

最後に、今回の派遣事業では、怪我や病気・体調不良者の発生もなく無事に帰国できたことと、気の良いコーチ陣と一緒に貴重な経験させて頂いたことに心から感謝致します。

指導員所感

京阪電気鉄道(株) 甲能 武 指導員



11月21日早朝、期待と不安の中、出発しました。異国の地で熱心に指導されておられる熊井、坂東両先生、ラオス南部の都市サワンナケートで指導中の若い女性の鈴木先生が案内役を務めて戴き、大変お世話になりました。

11月から2月が乾季で最も過ごし易いとのことでしたが、連日30℃を超える暑さの中で、午前・午後の2回行われる練習はハードなものでした。指導を行い感じたことは、やはり言葉の壁です。技を説明する際や、意思疎通を図る際には少し苦勞しました。日本留学の経験者がいたので大いに助かりましたが、理解して欲しいポイントや、我々の意図がうまく伝わっているのか分からないのが少し残念でした。しかし、互いに組んで稽古を行い、それを体現することで、伝えることも少なからずあったのではないかと思います。

参加に際し、年齢的なこともあり体力的にも精神的にも大変疲れたというのが率直な感想です。連日の暑さの中の練習、言葉の壁、諸公式行事等、緊張感の中での日程消化は、私にとり、非常に体力の要るものでした。又、コーチ兼団長補佐という立場は、正直意地もあり頑張りすぎた感もあります。しかし、ラオスの文化や習慣、又、観るもの接するもの全て新鮮であり、興味深く活動することができました。大変貴重な経験をさせて戴き今後の糧となる成果あるものでした。この様な



機会を戴いた連盟、参加を快諾頂いた会社、現地でお世話になった諸先生、ラオス柔道連盟、そして、今回の事業仲間の4氏に感謝申し上げます。最後にラオス柔道の益々のご発展とご健勝をお祈り致します。

大阪ガス㈱ 松本 邦彦 指導員



派遣決定時、柔道の普及拡大に貢献できる喜びと、指導経験の乏しい私が言葉も文化も違う地でどう指導すべきか、期待に応えられるかという気持ちが交錯しました。稽古の印象は、さほど力は強くなくても体幹が強いのか、バランスがよく足腰に粘りがある、でした。

技術面では、抱いていた海外柔道のイメージと異なり、得意技を軸として捨身技や奇襲技も習得しており、想像以上にしっかりした綺麗な柔道をする印象を抱きました。

又、礼法をきちんと身に付け、日本と同等、それ以上に教育が行き届いているように感じました。一方、個々の技は、基本動作が疎かになっている様に見受けられたので、基本を伝えることに重点を置いて指導に当たりました。言葉が通じず、もどかしさを感じる事もありましたが、互いに組み合えば不思議と通い合うものがあり、簡単な英語である程度意思疎通が図れました。背負投中心の柔道の私は、ラオスの選手は小柄で背負投を中心とする柔道の選手が多く、こうした選手の指導には自然に熱が入りました。

短期間ではありましたが、色々な人に出会い、本当に貴重な経験・勉強をすることができました。日頃殆ど無意識に行っている動作を分かり易く、かつ理論づけて説明することは、日本語の通用しない環境では本当に難しかったのですが、どうすれば伝わるのか、理解してくれるのかを考えながら指導することにより、自身が勉強になると共に楽しさも感じました。又、日本発祥の柔道が、礼儀など精神の部分



においてもラオスの地で根付いていることに驚くと共に嬉しく感じています。遠く離れた地で、ひたむきに指導に当たられている熊井先生を始めとする日本人指導者方の賜であると誇りに感じています。そして柔道に対する前向きな姿勢にも学ぶ点があります。ラオス柔道が発展し、2020年東京オリンピックで活躍する選手が現れることを本当に、現実的に期待します。

最後になりましたが、この様な貴重な機会を与えて頂いた西日本実業柔道連盟そして参加を快諾し温かく送り出して下さった会社の皆様に深く感謝いたします。又、現地でお

世話になった熊井先生、坂東先生に心から御礼申し上げます。

三菱レイヨン(株) 杉本 脩 指導員



この事業に参加出来たことはとても光栄であり、連盟及び会社関係者の皆様に深く感謝申し上げます。私がラオスで指導を行い感じたことは、ナショナルチームの選手達はシー・ゲームズで優勝する等、技術的・精神的にも向上しつつ、地位と名誉を獲得するという明確な目標を持ち取り組んでいたという事です。

目標に向かって練習に取り組む姿勢、集中力、技を習得したいという素直な気持ちと目の輝き、そこには忘れかけていた柔道を始めた頃の純粋な思いが満ち溢れ、私自身も改めて初心に戻り柔道を見つめ直すいい機会を頂いたと感謝の思いで一杯です。技の指導については、言葉の壁や指導経験の不足という不安もありましたが、彼らの熱い思いに、微力ながら少しでもその向上心に応えたいという気持ちが強くなり必死で頑張りました。

指導においても、技に対する動作を細かく一つひとつ教えるのは大変難しく、選手達に思いは伝わっているのか？100%理解して貰えているのか？不安だらけの状況でしたが、自分なりのジェスチャーや英単語を使い、積極的に指導・練習へ取り組む事で自然にコミュニケーションが取れ、より楽しく効果的な指導が出来たのではないかと思います。事故なく有意義な時間を過ごすことが出来たことは、ひとえに現地の熊井先生始め諸先生方の温かいおもてなしのお陰で感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

最後に、今回の経験を通じて、柔道の本質を見直すことが出来て私自身、選手として、指導者として、人として一回り成長することが出来ました。これを今後の柔道人生の糧とし、地域の柔道活性化に貢献すると共に後進に技術伝承し、会社においてもより良いリーダーとなるべく意識を高め、何事にも積極的に取り組み実践していきたいと考えています。大変貴重な経験をさせて頂き本当にありがとうございました。



株九電工 石橋 佑哉 指導員



初めての海外での柔道指導事業に参加が決まった時、これまで地域の子供達や学生を対象とした柔道指導は何度も経験しているものの、言葉が通じない中でどのような指導を行えば良いのか、生活環境の違い、治安の問題など不安ばかりが先行しました。指導に

当たっても

言葉が通じないことへの違和感がありましたが、選手達の一生懸命に練習をする姿や、熱心に学ぶ姿勢に触発され、身振り手振りや簡単な英語を通して多くのことを伝えることができたと思います。心配していた言葉の壁を越えて通じ合うことができたと思います。又、指導を行う中で、ラオスの選手から学ぶことも多く、多くの刺激を受けました。柔道場自体少なく現地での練習環境等、日本に比べると決して恵まれているとは言えない中で、一生懸命柔道に励む現地の選手を見て、私たちが普段いかに恵まれた中で柔道ができているのかを再認識すると共に、ラオスにおける柔道への可能性も強く感じました。まだ柔道人口も少ないですが、熊井先生を始め、現地の先生方の指導と熱い思いで、ラオスの柔道は今後大きく発展して行くと強く感じました。

今までの柔道人生では自身の成長を目的にしてきましたが、この経験を生かして、今後は後輩の育成や柔道普及にも貢献して行きたいです。又、柔道を通じて国際交流の機会があれば積極的に参加し、国境の隔たりなく共に励み高めあう仲間を増やしたいと思います。

最後になりましたが、今回このような貴重な機会を与えて頂きました西日本実業柔道連盟、現地の熊井、坂東両先生、渡航を快く承諾頂



いた会社の方々には深く感謝致します。今回の海外指導訪問の機会がなければ、柔道の国際交流に関して考えることや実際に体験する機会が無かったと考えます。私自身の知識や発想の幅を大きく広げることができ、柔道を様々な視野から見る事ができた様に感じます。今後はお世話になった多くの方に恩返しをし、柔道が地域で更に発展し国際的にも今以上に広まっていくよう尽力していきます。本当にありがとうございました。

現地報道記事



日本語訳

教育スポーツ新聞 2013年11月25日版

27回SEA Gamesにカウントダウン

西日本実業柔道連盟遠征団、柔道着、医薬品等をSea Games柔道選手団に贈呈

西日本実業柔道連盟のラオス柔道支援遠征団が日本より来訪し、支援を必要としていた27回Sea Game、ミャンマー大会に向かうラオス柔道選手団に継続的

な支援を行い、衣料や練習着等を贈呈しました。

この度、11月22日に、教育スポーツ省、エリートスポーツ局にて贈呈式が行われました。西日本実業柔道連盟、ラオス遠征団の吉岡智行団長よりセンポン・ポナマ教育スポーツ省エリートスポーツ局長に柔道着5着、大小50枚のタオル、スポーツバッグ、医薬品、テーピングテープ等の数々の贈呈品が、ラオス柔道連盟とラオス・日本武道館幹部の立会いの下に手渡されました。

後日報－SEA Games（東南アジア競技大会）の結果

ミャンマー・ネピドー市にて開催の「第27回 東南アジア競技大会」(SEA Games) 柔道競技(2013年12月17日(火)～21日(土)、9ヶ国 115名の選手参加にて開催)において、ラオスチームは男女重量級の選手を除く男女11名の競技選手と4名の「形」の選手が出場し、女子52kg 金、女子48kg級 銅、男子55kg級及び同66kg級 銅 合計4個を獲得した旨報告を受けています。